



スピーカー:ゴードン・フレデリック・コゴン
/ LABRATSインターナショナル、イギリス

ゴードン・フレデリック・コゴン - イギリスの核実験の経験を持つ退役軍人。
クリスマス島 1957-1958

現在83歳。1938年にドンカスターの近くで生まれ、イギリス唯一の真の水爆を目撃。退役後はバスや大型車の運転手としての長年勤め、がんや糖尿病との闘病生活を経て71歳で引退。2020年に82歳になったゴードンは、コロナ禍で「The Life of a Yorkshire Lad」という本を執筆 (<https://smile.amazon.co.uk/Life-Yorkshire-Lad-Born-Doncaster/dp/B08P6G6GDX>)。

現在はLABRATSインターナショナルのキャンペーナーとして、イギリス核実験退役軍人を啓発するために活動。

ビデオ撮影:エリック・バートン 編集:ブライアン・カウデン

こんにちは、ゴードン・フレデリック・コゴンと申します。私はイギリス軍による核実験の退役軍人です。1957年、1958年はクリスマス島にいました。現在はキリスマスイ島と呼ばれています。その核実験場にいた時から67年以上が経ちました。人生の中でたくさんを経験しましたが、あの2つの水素爆弾のトラウマに匹敵するような経験は何一つありません。それは私だけでなく同じ経験をした何千人もの仲間も一緒です。

まだ生きている仲間が少なくなりました。現在、私は83歳です。退役軍人の友人の多くは早死にしたり、もしくは若い頃から「放射線による」病気に苦しめられました。イギリス政府は認めませんがこれらの病気の多くは「放射線」との関係性が証明されています。

当時の私たちはたった18歳や20歳で何も知りませんでした。水素原爆は恐ろしいものです。クリスマス島に行った時、核実験のためだと誰も教えてくれませんでした。全て軍事機密でした。家族への手紙にそれについて書くのはダメでしたし、母にも父にも話せませんでした。もし誰かに話してしまったら国家機密保持法違反で長期間の懲役に処せられたはずです。

1957年11月8日に最初の核実験、グラップルXが実施されました。爆発の前に私たちは島の中央近くにあったメインキャンプの近くで爆発予定地点に背を向けて座られました。爆弾はヴァリアントV爆撃機によって島の東南端から約32キロ離れた地点で大気中で爆発される予定でした。つまり私たちは爆心地からおよそ56キロ離れていました。しかし爆弾は上空で爆発したのでまるで私たちの頭上で爆発したように感じました。

練習は2回ほどありましたのでやるべきことわかっていました。そして「タンノイ」がありました。「タンノイ」というのはスピーカーのことです。島中にスピーカーが配置されており、航空管制を通して爆撃機からの放送が流れました。パイロットたちの言っていることが全部聞こえました。航空管制官が私たちに指示を出し、カウントダウンをしました。

本番の11月8日は私たちは爆弾に背を向け砂の上に座っていました。カーキドリルの普通の軍用服を着て普段は被らないベレー帽を被るように指示されました。パイロット用のサングラスも配られ着用するように指示されました。指示に従って訓練通りにやるようにと管制官に指示されました。

一番最初に放送が聞こえました。スピーカーから

「飛行機がチャーリー一点に到着しました」
「サングラスをして、手で目を被ってください」
「頭を膝の間に入れてください」
「動いていいと指示があるまで動かないように」
と指示されました。

さらにスピーカーからカウントダウンが聞こえました。
「5 4 3 2 1」

そのあとたくさんのことが起きてどうすればいいのかわかりませんでした。正直に言いますと完全におびえていました。腕を通っている骨が見えていて生きたまま焼かれたんじゃないかと思いました。熱が体中に流れてまるで電気ヒーターが体の中を通過しているかのようなそんな感覚でした。私はあまりに怖くなってサングラスを上げました。そしたら何も見えなくて、全てがこの紙のように真っ白でした。

寄りかかっていた木も周りにいた仲間も見えませんでした。真っ白な空間しかありませんでした。目が見えなくなったのだと思いました。実はと言うと自分が焼かれていると思いました。そんな悪夢も見ようになりませんでした。核実験の後からよく見るようになりました。今は少なくなりましたが、以前は月に一回はその悪夢を見ていました。悪夢では私は白い霧の中において骨が浮き出ているいくつもの腕が私を捕まえようとしています。夢から覚めると身が震えています

グレップルの実験は少し違いました。白い綿のオーバーオールと防護メガネの防護服が用意されていました。防護服とメガネを着けていたため何も感じませんでした。一回目よりも大きな爆弾で私は一瞬見ようとメガネを上げたら3週間、目が見えなくなり、病室で過ごしました。

何も見えなくなり、更にその夜は大量の雨が降りました。しかし、その日の空に唯一あった雲は午後の爆発の後に残された原爆雲でした。最初のグレップルの実験の後、私は午後にキャンベラ(軽爆撃機)を洗うように指示されました。その飛行機はサンプル採集のため原爆雲の中を飛行したばかりで、ガンマ放射線まみれでした。防護服なしに高圧ホーズを直接タービンエンジンに向けてはいけなかったことになっていたので私はエンジンを手洗いしないといけませんでした。自給式呼吸器があったが壊れていました。肩紐が壊れていたので使えませんでした。代わりに雑なマスクを渡されたが、水に濡れて息ができなくなったので外さざるをえませんでした。

その時に私はおそらく呼吸と一緒にガンマ放射線の同位体を吸い込みました。ガンマ線はアルファ粒子を放します。アルファ粒子の半減期は24,000年です。アルファ粒子は皮膚を通過できないため呼吸や水などを通して一度体内に入ってしまうと二度と出ていきません。私の場合は爆撃機を洗っていた時に水が顔に当たりました。または原爆雲の雨かもしれないし何か食べたものについていたかもしれません。

当時に比べて今は研究が進み遺伝子に影響を与えることが証明されました。がんの原因にもなりません。私の子どもも被害を受けました。私も被害を受けました。私は前立腺がんになりましたし「放射線」が原因でたくさんの仲間が早死しました。子どもの世代にも影響があることが証明されたのにイギリス政府は私達のことや私達の訴えを認めません。だから私は怒っています

子どもたちが影響を受け、子どもたちの遺伝子も影響を受け、さらに彼らの子どもたちにまで影響は及ぶでしょう。この放射能は消えません。私は実験の後まもなくして全ての歯をなくしました。入隊時に受けた精密な健康診断の時にはなかった背骨の硬化症にもなりました。白内障の手術もしましたし、2型糖尿病にもなりました。全てが原爆のせいだとは言いきれませんが、もしそうだったとしても驚きません。

以上です。



おことわり

この文章の責任は証言動画の文字起こしを行ったピースポートにあります。オリジナルの証言と完全に一致するとは限りません。オリジナルの証言は2021年12月3日(日本時間)に行われた世界核被害者フォーラム2021にてオンラインで上映されました。このフォーラムはピースポート主催、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)協力で開催され、世界5大陸から30名を超える参加者がそれぞれの核の被害を1000人を超える視聴者に訴えました。証言やパネルディスカッションの様子はYouTubeチャンネルまたはこちらのウェブサイトより閲覧可能です。<https://nuclearsurvivors.org>